第 2015-09 号

恵みと真理のニュース

2015 年 3 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

主は家庭の牧者になり、主が生きておられる事を伝える家庭になるように導いてくださった恵みに感謝します

私は結婚して田舎でスーパーを運営しながら農業もして4人の兄弟を生み育てました。ある日から体の調子が悪くて疲れて病院に行って診察を受けた結果“神経性胃腸病”と言われました。薬を飲んでも治らなくて祭祀もしました。それでも治らなかったです。日が経てば経つほど死にそうでした。
隣りの家に住んでいる勧士がしばしば賛美を歌うことが聞こえて来ましたが今までは聞き流しました。どころが、痛い日が続けてある日からその賛美が耳に入りました。賛美を聞く時に珍しいが心がはずみました。もしイエスを信じると生きるのではないかと思い教会に行くようになりました。
店の仕事と農業でとても忙しかったですが、心を決めて熱心に礼拝に参席して説教の御言葉を聴き朝祈り会、徹夜祈り会にも休まずに行きました。主日礼拝を捧げる中で４０５章（私のような罪びとを救ってくださり）歌うと悔い改める祈りをして涙が止まらなかったです。真実に悔い改めてイエス様を救い主として受け入れました。その日から礼拝に参席して御言葉を聴き祈りと賛美する事が私の生活の中で一番嬉しくて幸せになりました。そうしながら、薬を飲むのも忘れるほど痛みがなくなりました。もう薬を飲まなくても病院に行かなくても良い健康な体になり神様に感謝と賛美します。全てが変るようになり神様の能力に驚きました。
　1981年に旦那の逸脱行為で家庭は苦しみと絶望は来ました。私の信仰のテストではないかと思うくらいでした。私が旦那を許す心を与えて下さり私達の子供達が父がない子供にならないように涙を流しながら祈りました。そして今まで全力を尽くして旦那を伝道しなかったことも悔い改めました。神様は私の切ない祈りに答えてくださいました。
　翌年新しい生活のためソウルに引越しました。小さい部屋一つある家でした。旦那もインチョンの病院に就職しました。経済的にはとても大変でしたが主の中で希望を持っていきながら心はどんな時より平安で楽しかったです。今まで助けてくださり摂理してくださる神様の愛と能力を体験したので新しい家も与えて下さることも信じて祈りました。新しく移した教会で完全に悔い改めない旦那を除いて全ての家族が水洗礼を受けました。神様の摂理の中で比較的に広い家を借りアンサンで引っ越して恵みと真理教会の聖徒になりました。
　子供達と共に教会を通い主を仕えました。ある日は主日礼拝で当会長牧師の説教を聴く時に牧師の顔が3回も変るように見えました。はじめは私の眼がおかしくなったと思いました。家に帰って来て旦那に話をするとおかしいけどもしかして“あなたに良い事が出来るのではないか”と言われました。さすがよいお知らせが来ました。今まで田舎の土地を売って家を買おうとしましたが金額が安くて売れなかったですが私達が考えた以上の金額で買おうとする人が現れたのです。慈しみ深い神様は家のため祈った私の祈りに答えてくださり助ける手を与えてくださいました。よく引越しをして苦労した子供達に私達の家で平安な心で生活をするのを見て胸が熱くなり神様に自然に感謝と賛美が出ました。以前四人兄弟を見ると涙が出ましたいつ育てて勉強させて結婚させるかと前が見えなかったですが、イエス様を信じてから時によって神様の恵みで勉強させ結婚までさせることが出来ました。神様は福を下さり広いアーパトで移しました。区域の多くの聖徒が来て礼拝を捧げる時にもっと嬉しくて感謝でした。
　2007年旦那がオートバイ事故で頭を怪我して5回も手術を受けて病院ではもうこれ以上の治療は出来ないと言われました。そんな危ない状況でも落胆しなくて全能な神様、治療の神様に節に祈たら旦那を治してくださり今は健康に仕事をしています。
　その頃かてて加えて代理運転事業をしていた息子が詐欺にあって娘二人も経営した事業が滅びるなど家に大きい患乱が続きました。すると全ての家族が神様に祈りをして、教区と区域のおおくの聖徒もまるで自分のことのように祈ってくれました。そしてまもなく神様は家庭を回復してくださいました。大変になった原因を悟らせてくださり苦しみが繰返さないように知恵も与えてくださいました。何よりも欲望を捨て誠実な子供にならせてくださいました。旦那はこの全てが神様の恵みだと言いイエス様を受け入れ熱心に信仰生活をする聖徒で変化されました。信仰生活になみがあった子供達もひたすら主を愛し委ねて生きるようになりました。私も勧士の尊い職分を受けて聖餐室で奉仕しながら以前より幸せで区域を仕えています。災いを転じて福と成しました。
　主は私達の家庭の牧者になり主が生きておられる事を伝える家庭になる恵みに感謝します。苦難のときことに克服するように慰めと勇気と力を下さり、 万時が益となるように働いた恵みに感謝します。主の愛は変わりなく孫に至るまで信仰を与え、主を恐れ愛する人生を行きるようになりました。いつも祈りと賛美をし主と教会を仕え献身するに足りないことがないように祈ります。神様に全ての栄光を捧げます。

［信仰コラム］

左にも右にも曲ってはならない信仰生活

。。。あなたがたの神、主が命じられたとおりに、慎んで行わなければならない。そして左にも右にも曲ってはならない。あなたがたの神、主が命じられた道に歩まなければならない。そうすればあなたがたは生きることができ、かつさいわいを得て、あなたがたの獲る地において、。。。(申命記, 5:32~33)

聖書には左にも右にも曲ってはならないと言うお言葉が何回も記録されています。 これは中立や中間を取りなさいという意味ではないです 定道を歩くことを意味します。決まっていて替えることができない道理、原則によって生きて行くことを言います。その原則は神様が与えられたのであり聖書に啓示されています 信仰生活は聖書に啓示された正し道、決められた道を従って生きて行く生活です。
第一に、信仰と行いにおいて 左にも右にも曲ってはならないです。
信仰と行いの関係を完全に分かるようになれば私たちの信仰生活が正常軌道に出て進行するようになります。 一方これを明らかに理解することができなければ信仰に混沌をもたらして教会に通いながらも救いに至ることができないとか惑う異端に導かれて行ってしまいます。 信仰のない行いは私たちを救いに至るのができないです。 真実の信仰を持つことができなかったままただ行為を見る時、表で見る時に立派な教人のように見える場合にも結局救いに至ることができなくなります。 また行うのがない信仰も無益です。 信仰告白もして祈祷も上手にするが　対人の関係、家廷生活、社会生活することを見れば到底にクリスチャンであると思いにくい言葉と行動をする人がいます。 こんな人の信仰の実は真実の信仰ではない可能性があります。全く信仰があればそこに従う美しい実が現われるようになります。 実がなく行いのない信仰は信仰ではなく事実は知識的に分かることに過ぎないです。
信仰と行いにおいて左でも右でもかたよってはいけないということは信仰と行いを兼備した信仰を言うのです。 聖書ヤコボで 2 章には信仰が彼の行いことと一緒に働いて行いことで信仰が完全になった例としてアブラハムを提示しています。 アブラハムが独り子イサクを祭壇に差し上げた実践的な行為の中には神様の約束のお言葉に対する信仰がありました。 完全な信仰と言うのは神様のお言葉に対する信仰と行いが一緒にするのです。 信仰と行為はお互いに相反しないし真の信仰は行為を生んで、真の行為の中には信仰があります。これら行為の原因と同期は神様に対した信仰であり、神様のお言葉に対する信仰です。 私たちの信仰は行いを生む信仰ではなければならなくまた行いは信仰に根拠したことではなければなりません。
二番目で、律法と恵みにおいて 左にも右にも曲ってはならないです。
律法が要求することをすべて守ることができる人はいないです。 それなら神様が律法をくださった目的は何であり、律法の役目はどんなことでしょうか? 神様は人にとって罪の真正な本質が何やら分からせるために律法をくださいました律法がある前には罪を罪で分からなかったが律法があるので罪を罪で分かるようになりました。また律法は人が神様の法を守ることができないのを分かるようにします 律法は完全な服従を、継続的で抜かりがない従順を要求します だから誰も律法の行為で神様の前で義人になることができないです また律法は罪からあがないとか罪人を救うことができないです 律法は罪人にとって降伏してイエスキリストのみもとに進ませる役目をするだけです。
律法を行うことで救われるとかイエスキリストを信じても律法を行うから救いが保全されるという教えることは左右でかたよった教訓です。 イエスキリストを信じて恵みで救いをもらったからどのように行っても構わないという教えることも左右でかたよった教訓です。 正しい信仰はイエスキリストを信じて恵みで救いを受けたので形言することができない喜びと感激を持って、主を嬉しくするための願いを持って、神様の善良で喜んで完全なみ旨が何なのか分別してそのみ旨のどおり暮すのを力をつくす信仰です。 皆さんは行うことと信仰、律法と恵みに対して左にも右にも曲ってはならないで信じて行うの聖徒になるように願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私はイエス様の誕生、死、復活を信じます

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は使徒信條の中で “主は聖霊によりてやどり 処女(おとめ)マリヤより生れ ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け十字架につけられ、死にて葬られ陰府(よみ)にくだり三日目に死人のうちよりよみがえり、” という内容をイエス様の誕生、死、復活という三つの部分に分けてよく見ます。

第一部分は、“主は聖霊によりてやどり 処女(おとめ)マリヤより生れ” です。

イエス様の誕生は宗教的に偉人の生まれではないです。 イエス様の誕生は神様が肉体を着て人の形でこの世の中へいらっしゃった神秘で驚くべきな事件です。 神様は聖父、聖子、聖霊の三位が一体です。 永遠なお言葉だと呼ばれる聖子の神様が肉体を着て人の形で世の中へいらっしゃいました。 ヨハネによる福音書 1 章にこんなに記録されました。 “初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。”(ヨハネによる福音書 1:1-3) “そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。” (ヨハネによる福音書 1:14).
聖子の神様が聖父神様のみ旨に従って童貞女マリアの身に聖霊に孕胎されて誕生しました。
その事実に対して人々は二つの質問をします。 “どのようにそういう事が可能ですか?” する質問と “どうしてそうしなければなりませんか?” という質問です。 聖子神様が童貞女マリアの身に孕胎される事がどのように可能ですか? という質問はマリアが御使に投げた質問でもあります。 御使ガブリエルがタビデの子孫ヨセフと縁定めしたマリアに現われました。御使が言うのを “御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた。この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリヤといった。御使がマリヤのところにきて言った、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。 (ルカによる福音書, 1 :26-35)

誰でも天地を作った全能な神様を信じたら娘マリアが聖霊に孕胎された事実を信じるのにどんな難しさがないです。それでは “神様が童貞女マリアの身を借りて人間の形にこの世の中へいらっしゃらなければならない理由が何ですか?” という質問に対する答を調べましょう。
神様が罪人を救われるために一つ方法を定めたがこれはあがないです。 罪人の罪を代わりに担当して刑罰を受ける人があればその罪人が罪のゆるしを受けるようになる方法です。 罪が全然ない人でなければあがないになることができないです。 ところでアダムの血統から生まれの人は皆が罪の中に生まれます。聖書に記録されるのを “義人はいない、ひとりもいない。”(ローマ人への手紙 3:10)と言いました。
旧約の時代にあがないのお供えで差し上げたお供えは皆が将来いらっしゃるあがないに対する模型で影に過ぎなかったです。罪のない聖子の神様が童貞女の身に聖霊に孕胎されて人の形でこの世の中へいらっしゃった理由がここにあります。

二番目部分は、“ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け十字架につけられ、死にて” です。

ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受けたという部分は非常に意味があります。これはイエス様が十字架に釘つけられた事件を歴史的に立証する意味を持ちます。イエスキリストは私たちのために苦難を受けられて死ぬためにこの世の中へいらっしゃいました。 “キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。”(ピリピ人への手紙, 2:6-8)で記録されています。 十字架で処刑されることはローマの刑罰では一番極端の刑罰を受けるのです。 裸にしたまま十字架に釘つけられる事ができなく多いの人の前で侮辱にあうことを想像して見てください。 言葉で言えることができない恥ずと苦痛の前で人格と名誉とは毛の先位も残っていなくなります。
イエス様が受けた苦難と十字架に釘付けられて死ぬの真の意味は何ですか? イザヤ書 53 章には “まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。
しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。”(イザヤ書, 53:4-6)と記録されました。 イエスキリストが受けた苦難と死はあがないの苦難と死です。 そうするので “ポンデーオピラトに苦難を受け十字架に釘付けられた事ができなくたまらなくて”という部分は私たちの信仰と告白の中心になります。

三番目部分は、“ 死にて葬られ陰府(よみ)にくだり三日目に死人のうちよりよみがえり” です。

イエスキリストの復活はイエス様の超自然的な誕生とあがないの死とともにクリスチャンの信仰の礎石です。
イエス様の復活は私たちの罪が成功的に完全にあがないになった事実を確証するのです。 初めのクリスチャンは多くのユダヤ人でした。彼らはユダヤ人が今まで守って来た安息日の代りにイエスキリストの復活した日曜日すなわち主の日を守るようになりました。 そしてイエスキリストの復活の証拠で新約聖書ができたのです。 新約聖書には復活に関する六個の別になった干証が含まれています。 その中の三つはイエス様の弟子ヨハネ、ペテロ、マタイなどが直接に見て証言したのです。 パウロは信者に送った手紙で復活は自分にも読む者にも疑心なしに受け入れることができるように知られたことであると言いました。 イエスキリストの復活に対する圧倒的な証拠はその外にもたくさんあります。 空いた墓の証拠と復活したイエスキリストが人々に現われた証拠です。
イエスキリストの復活を認めないという人々の主張を整理して見ればおおよそ五つです。 第一は、使徒が死骸を盗んだという主張です。ところで逮捕することが恐ろしくてイエス様を捨てて逃げ出した弟子が死骸を盗むためにローマ軍兵と争いますか? そして死骸を盗んでおいて命を出して復活したと偽り証言を言ったのですか?そんなことはできないです。 二番目は、ユダヤ当局やローマ執政官が死骸をどかしたという主張です。それなら使徒がイエス様の復活に対して叫ぶ時に自分たちが片付けておいた死骸を公開すればいかったことをそうでなかったです。 三番目は、女人が悲しみに抑えられなくて 無茶な空いている 墓を見てイエスキリストがよみがえたと勘違いしたという主張です。もしそうしたらユダヤ当局者が死骸を公開すればいかったはずです。 ところでそんな事がなかったです。 四番目は、イエス様が十字架で死んだのではなく卒倒してからよみがえたという主張です。 十字架処刑を受けた後墓で昏睡の状態にあってから起きたらそんな身で墓を阻んだ粗大で重い石を押して出てローマ軍兵と争って勝って弟子に現われることができますか? そしてペテロが空いた墓の中に入って見たら死体に亜麻布で巻いたが解けていないで死体を巻いたその形どおりすぼっと消えていました。死で復活した身になったのではなくては説明が不可能です。 五番目は、弟子がイエス様の復活を期待したあげく幻想を見て復活したと勘違いしたという主張です。 復活したイエス様は 40 日間十回以上も弟子に出現したがその時ごとに時間、場所、人々が皆違いました。 イエス様の復活に対しては誰も否認することができない確かな多くの証拠があります。

イエス様を信じないという人々はイエス様の誕生に関して偉人の誕生のように扱ってしまうことができます。 イエス様の死に関しては崇高な精神と勇気であったと敬意を表するのに止めることができます。 しかしイエス様の復活に対しては異にする言葉を探すことができないだろう。 イエス様は親しく彼の死といっしょに復活を予言したしそれは事実化されました。世の中の人々の罪の代わりに死んだ人がイエス様の外にどこにあり、死亡権勢を勝って死から復活した人がイエス様の外にどこにありますか? イエスキリストの誕生と死と復活という客観的事実を主イエスキリストに対する信仰告白の根拠にする人は真実で幸いである人です。愛する皆さんは、イエス様の童貞女誕生と十字架であがないの死と墓から復活という厳然な歴史的事実に根拠した救いの福音を力をつくして伝えるように願いします。